

笹川保健財団 奨学金支援

助成番号：2019-

(西暦) 2020 年 3 月 28 日

公益財団法人 笹川保健財団

会長 喜 多 悦 子 殿

2019 年度奨学金支援

完 了 報 告 書

標記について、下記の通り完了報告書を添付し提出いたします。

記

2019 年 5 月下旬からタイのマヒドン大学大学院の公衆衛生学修士コースに在学し、事前必修科目から、2020 年 3 月の現在まで公衆衛生のみならず、様々な点において学びを深めてきました。主に学修した内容と得たことは下記の通りです。

1) 履修科目からの学び

学修内容は主に公衆衛生学の主要構成である **Epidemiology**、**Statistics**、**Environmental and Occupational Public Health**、**Health behavior science**、**Public Health administration** を重点的に学びました。また、公衆衛生学と深く関連がある **Nutrition** や **Geographic Information System**、**Health Economics** なども学び、公衆衛生を様々な側面から視る方法を学びました。そして、これらを地域現場で活かすことができるよう、2 回のフィールドワークを行いました。現地に赴き、現地の健康問題を明らかにするとともに、人々が健康を維持・増進し、より良い質の生活が送れるよう支援

するための計画策定までをグループで行いました。机上での学修からは、公衆衛生に関連するモデルやストラテジー、デジタル化した集団の健康問題の分析方法、などを学び、これらを実際にどのように活用するかは現場での実践を通じて学びました。この学修から、今後の活動の際には人々の公平性・平等性・医療サービスのアクセス性などといった公衆衛生的視点も考慮しながら、対象者自身が自身の健康問題に気が付き、健康の維持・増進を行うための支援に活用していきたいと思えます。

また、自身の専門分野は災害看護のため、この専門分野に公衆衛生学観点を掛け合わせ、今後災害サイクルのいかなる場面でも人々の健康の維持・増進のために貢献できる看護を研究し、活かしていく予定です。研究結果を実践に生かし、実践で得たことを研究にフィードバックができるよう、将来仕事を行う時は、この両方をバランスよく行えるよう努めていく次第です。

2) 大学院コースおよび海外留学からの学び

今年の同級生は、10 か国（タイププログラムを含めると 11 か国）のアジアから来た学生で構成されており、同じアジアでも文化の違い、勉学に対する姿勢の違い、宗教や信仰の違い、年齢やバックグラウンドが異なることでの意見の違い、など多くの異なりを体感することができました。また、ポットラックを自身で企画し、食を通じて同級生との学業面以外での交流を試み、異文化理解を深めていきました。このコースではグループワークが多かったことから、グループのメンバー構成や人数、内容によりグループへの貢献度や雰囲気、協調性など異なることを改めて感じました。また、グループで行うメリットやデメリットを改めて学ぶ機会にもなりました。時には、誤解や意図しない差別的な対応をされたこともありましたが、これらのことから相手を尊重することそして、真摯であり誠実に対応していくことが互いへの配慮であり、相互理解の促進になることを学びました。

マヒドン大学の“Mahidol”にはそれぞれネームバリューがあり、M=Mastery, A=Altruism, H=Harmony, I=Integrity, D=Determination, O=Originality, L=Leadership となっていることから、振り返ると、これらの意味がコース内のいたるところでみられており、学修を通じて学生がこれらを自然と身に着ける、顕在化する、または強化するなどといったように組み込まれていたことも学びの一つです。

ここから得た学びは、将来仕事に就いた際に、多職種間や異なる国や考えの人と共同作業を行う際のコミュニケーションやネゴシエーション時に活かしていきたいと思えます。また、災害看護でも公衆衛生でも、一人だけで活動を行うのではなく、政府関係者や地域のステークホルダー、対象者集団などあらゆるレベルの人々を巻き込み、対象集団の健康問題解決をしていくことが重要だと学んだため、ここで得た人脈（ネットワーク）を生かし、相談や協力、意見交換を続けながら、より多くの人々が健康でかつ安全で安心な生活ができる場を提供できるようこの学びを将来の仕事で活かしていきたいと思えます。

他として、マヒドンのネームバリーから学べた、リーダーシップや協調性、相手を思いやる心を持ちつつ、最善かつ最適な決断が出来るよう社会で役立てていきたいと思えます。そのためにも、相手への尊重の意を欠かさず、今後も常に自分自身の情報や知識・技術をアップデートやブラッシュアップしていく必要を感じています。

修了まで残り数か月となり、現在は修士論文作成を残すのみとなりました。2020年は COVID-19 のパンデミックにより大きな公衆衛生の問題に世界が直面しています。この問題に対して、私自身は改めて公衆衛生学の重要性、人々が健康な状態で社会生活を営む大切さを感じている今日です。そのため、気を抜かず今後公衆衛生および災害看護に関する課題に貢献できるよう、自分の研究に取り組み、研究手法を身に付けていく次第です。

終わりに、今回の留学の経済的援助およびあたたかく見守ってくださった笹川保健財団の喜多会長をはじめ、スタッフの皆様に感謝の意を申し上げます。

進学先 Mahidol University Master of Public Health International Program 2019-2020

氏名 _____ 山口 沙織 (Saori Yamaguchi) _____